

# 伝統つなぐ、 白河提灯まつり



江戸時代から長い年月を経て、今に受け継がれる「白河提灯まつり」——。コロナ禍を経て、今年は6年ぶりに通常規模での開催となります。

※写真は、令和4年度の白河提灯まつりです。

## 鹿嶋神社祭礼渡御祭

白河の城下町の総鎮守である鹿嶋神社の例大祭で、2年に1度、9月に3日間開催されます。

その始まりは、白河藩主・本多忠義が明暦3年（1657）に神輿を奉納したこと。

これ以後、城下町を渡御する祭礼が始まったと考えられています。



一般的には「白河提灯まつり」と呼ばれていますが、正式名称は「鹿嶋神社祭礼渡御祭」。江戸時代の武家社会の儀礼・作法が今も重んじられているとされ、別名「儀式まつり」とも言われています。

日中には神社神輿が2日かけて旧城下町の氏子各町を回る「総町渡御」と、各町内の屋台や山車の引き回しが行われます。

夜には氏子各町の提灯行列と神社神輿が旧奥州街道を中心に巡行し「提灯まつり」の名にふさわしい幻想的な光の行列が続きます。

加えて、神輿が神社のそばを流れる阿武隈川や境内のたいこ橋を渡る勇壮な場面も祭礼の大きな見せ場です。

## 夜は提灯行列による送迎

夜は、氏子各町の提灯行列が神社神輿を送迎する形で巡行します。行列の先頭は、神社神輿の警護や行列の進行管理を担う「先達（愛宕町）」。行列の中央に位置する神社神輿を担ぐのは、初日と最終日は「横町・田町」、2日目は「大町」と決まっています。神社神輿の前後を固める各町の提灯行列の隊形は、高さ10m程もある「先達提灯」を先頭に、高さ3m程の「高張提灯」、手提灯を掲げた壮者（祭りを企画・運営する人々）が担ぐ「町内神輿」が続きます。その後ろに手提灯を持った元方（祭りを主宰し、壮者を監督する人々）が並び、最後は元方提灯が隊形を締めくくります。

夜のまちに浮かび上がる提灯の灯りや、小気味良い拍子木の音、神輿を担ぐ壮者たちの威勢の良い掛け声。生で見る提灯行列の迫力や華やかさは圧巻です。

## 日中は神社神輿の総町渡御



初日の夜に鹿嶋神社を出発した神社神輿は、桜町の御旅所で1泊し、その後2日間かけて氏子各町を渡御引継しながら巡行します。2日目、3日目の日中に行われる総町渡御では各町内の氏子が神社神輿を担ぎますが、町境で次の町内に神輿を受け渡す際には、祭礼全体を執り仕切る「宮本（桜町）」が必ず神輿を檢分し、次の町内の氏子たちへと渡御引継を行います。また、祭礼中は各町内に「御旗場」が設けられ、神社神輿が御旗場を通過する際には、神樂奉納などの神事が執り行われます。

厳かな雰囲気の中で行われる総町渡御は、伝統と格式を感じさせます。

## 屋台・山車の引き回しにも注目



日中、各町では伝統的な装飾が施された屋台・山車の引き回しを行い、子どもたちが笛や太鼓のお囃子を披露します。

現在はお囃子が主ですが、江戸時代には華麗な衣装を着用し踊り芸を披露しており、家業を怠るほど子どもに稽古に熱が入る家もあったようです。

太鼓をたたくりリズムやお囃子には町ごとに特徴があり、夏になると集会所などで練習が始まり、だんだんと町中がお祭りモードに入ります。夢中で練習に取り組む子どもたちの姿は、今も昔も変わりません。

伝統を紡ぎ、元気に祭りを盛り上げる子どもたちの姿は必見です。



昭和30年代 阿武隈川渡河



昭和33年 神社神輿総町渡御



昭和61年 神社神輿



平成15年 高張提灯



平成30年 神社神輿

秘書広報課 内2371



# 白河提灯まつり

令和6年9月13日(金)~15日(日)



自分は、小学校4年生の時に初めてお囃子としてまつりに参加させていただきました。当時は子どもたちの人数も多く、町内に住む男の子はお囃子をやるのが当たり前の状況でしたが、近年はどの町内も年々参加人数が減少しております。進学や就職により地元に残る人が減少し、各町内の人だけでは参加人数が足りないため、現在では町内に限らず、それぞれのつながりのある人たちに他の地域から参加していただいております。

各町の壮者筆頭が集まる壮者会では、歴史ある白河提灯まつりを次の世代につなぐため、



鹿嶋神社氏子壮者会  
会長 秋山 政信 さん

**伝統をつなぐ、担い手の思い**

白河提灯まつりを間近に控えた今、歴史あるまつりを次の世代へとつなぐために奮闘する鹿嶋神社氏子壮者会 会長の秋山さん(宮本・桜町)にお話を聞きました。

15年ほど前から毎年、小学校で出前講座を行っております。これを機に少しでも提灯まつりに興味をもち、参加してくれる子どもたちが増えてくれればうれしく思います。

今年は6年ぶりの通常開催で、これからのまつりの一歩となります。残念ながら人手不足で神輿を担ぐことができず提灯のみの行列となる町内もあるかと思われれます。

それでも、どのような形であれ、つないでいくことができれば、次の世代の人たちの考えで必ず継承されていくことと信じております。今まで伝統を培ってこられた諸先輩方や他町の方々とも意見を交わしながら、白河提灯まつりを守りつないでいければと思っております。

最後に、まつり当日は各町さまざまな山車の引き回しや、子どもたちが元気よく太鼓をたたきお囃子の姿をぜひともご覧ください。また、夜は提灯を掲げて練り歩く姿、行列が織りなす彩りをご堪能ください。

**13日行列経路** 鹿嶋神社～御旅所  
**14日行列経路** 九番町～御旅所  
**15日行列経路** 向寺～鹿嶋神社

**15日出発!**

**鹿嶋神社**

13日 先達出発 午後6時30分  
 神社神輿出発 午後7時20分  
 宮本出発 午後8時30分  
 ※たいこ橋渡り・全町渡河 午後6時30分～8時30分頃

15日 先達到着 午後7時15分  
 神社神輿到着 午後8時5分  
 宮本到着 午後9時15分  
 ※全町渡河・たいこ橋渡り 午後7時～9時頃  
 ※参加全町お打ち 午後9時45分頃

**御旅所**

13日 先達到着 午後8時  
 神社神輿到着 午後8時50分  
 宮本到着 午後10時

14日 先達到着 午後7時  
 神社神輿到着 午後7時50分  
 宮本到着 午後9時

**向寺**

15日 先達出発 午後5時15分  
 神社神輿出発 午後6時5分  
 宮本出発 午後7時15分

**白河駅前交差点**

14日 先達通過 午後6時20分  
 神社神輿通過 午後7時10分  
 宮本通過 午後8時20分

**四辻交差点**

14日 先達通過 午後6時40分  
 神社神輿通過 午後7時30分  
 宮本通過 午後8時40分

15日 先達通過 午後6時5分  
 神社神輿通過 午後6時55分  
 宮本通過 午後8時5分

**九番町**

14日 先達出発 午後5時  
 神社神輿出発 午後5時50分  
 宮本出発 午後7時

**セブンイレブン前**

14日 先達通過 午後5時50分  
 神社神輿通過 午後6時40分  
 宮本通過 午後7時50分

**駐車場**

総合運動公園駐車場、城山公園駐車場、市役所臨時駐車場  
 ※鹿嶋神社駐車場は利用できません。  
 ※総合運動公園駐車場・市役所臨時駐車場は、提灯の行列が全て通過するまで車の出し入れはできません。

●祭典・日程・進路順路の問い合わせ先  
 鹿嶋神社 ☎3079  
 白河観光物産協会 ☎1147

